を全で宮川民都左衛門といふ神影 でなる人は応日で数部の主人でき となったは応日で数部の主人でき となったは応日で数部の主人でき はなるできから

ものでなければ常家の現にもなる らなければならない余程度のすぐ 石巻に必得て家中のものへ中一人 でうる名為へ即沙はよなち安勢守 をものを一人指索器としてさし途 をいましたが病死いたしたに

個門がの人職が成の遺む手相手は岩間の近のに後竹が主張の遺む手相手は岩間の人職が成の遺む手相手は岩

物に能り出ました正面には安都守

小型以をするだけつからかい早く負でしまいながまったは戸はた何うせ、ける15点が野鬼の容子を見て重た衙門として奴は破が野鬼の容子を見て重た衙門として奴は破

がっていった終った ……見て居たものがからくいった終った で、見て居たした。 更のことく歌版をいたしました水は現はれ 更のことく歌版をいたしました水は現はれ またのが成崩軍艦・関係的。 を取つて出て 様 たのが成崩軍艦・関係的。 を取つて出て 様 たのが成崩軍艦・関係的。 を取つて出て 様 たのが成崩軍艦・関係的。 を取つて出て を取ったとした大島造の、 他の連入マット中段に

携さへ立出ずした岩気は失張・成瀬の

に像を慣んで居るだらう打つは安みが 作が、しまやらきュー者がへましたか で、出す廣瀬の、先をボントーと ちつて突出す廣瀬の、先をボントーと ちつて突出す廣瀬の、先をボントーと ちって突出す廣瀬の、元をボントーと たって突出す廣瀬の、元をボントーと たって突出す廣瀬の、元をボントーと たってでする此の皮は成構大學系的 に像を慣んで下る此の皮は成構大學系的 に像を慣んで下る此の皮は成構大學系的 に像を慣んで下る此の皮は成構大學系的

見がすくみます此の特にお見がマ

てからの面へ渡入すせして相打であるれば相打にする海がヘッミへコ、テあれば相打にする海がヘッミへコ、テあれば相打にする海がヘッミへコ、テあれば相打にするならを成績に小手を取るから之も勝べき

面とい人繋どともに大川八右衛門の肩先に のを重を御門が観がわでがツキと受けておそう職もないのに入右衛門が打込んでくる





